

厚生労働科学研究費補助金(地域医療基盤開発推進研究事業)
分担研究報告書

小児科医の質と育成のための研修に関する研究

研究分担者 佐藤好範 医療法人社団健育会理事長
日本小児科医会 業務執行理事

【研究要旨】

地域小児医療を担うべく、小児科専門医の質の評価を行い、次世代の小児科専門医の育成のための研修について考察する。

A．研究目的

開業小児科医を中心とした小児科専門医が、地域での小児科かかりつけ医としての活動状況と、診療能力を評価すること。

B．研究方法

日本小児科医会会員 5770 名を対象にアンケートを行い、693 名より有効回答を得た。回収率は 12.0%であった。

(倫理面への配慮)

アンケートは無記名で行い、個人の特定できる質問は行わなかった。

C．研究結果

地域総合小児医療認定医が 267 名(含む 29 名申請中)、小児科専門医を持つ(かつて持っていた)が、地域総合小児医療認定医を持っていないもの 366 名、小児科専門医も地域総合小児医療認定医も持っていないもの 60 名であった。

小児救急医療、乳幼児健診、予防接種ではほとんどのものが関与していた。学校医、保育園園医、発達障害の診療では 70%程度、障害児医療、在宅医療、子どもの虐待では 50%以下の関与であった。

D．考察

小児科医は総合医と謳っていても、発達障害、障害児医療と在宅医療、等には 50%ほどしか、かかわっていなかった。保育園園医、学校医はほとんどが、地域の医師会の

推薦を必要としている。

一般病院の小児科勤務医が学校医などに就任していることはほとんどなく、小児科専門医の研修プログラムに反映しにくいのが、現状である。

各項目について、指導できると回答したものは、初期救急医療、予防接種、乳幼児健診では 20%ほどだが、そのほかの項目は 10%程度であった。

E．結論

これからの小児科専門医は、小児の疾病の診療に当たるだけではなく、小児の保健、福祉にもかかわり、小児の地域包括ケアに参画しなければならない。今回の研究の成果から、地域総合小児医療に関しては、多くの小児科医がかかわっているが、指導医の存在が希薄である可能性が指摘された。今後地域小児医療の提供を行うための研修のあり方を検討し、次世代の小児科専門医の地域小児医療の研修における指導医のあり方と育成カリキュラムなどについて活用していくことができると考える。

F．健康危険情報
特になし

G．研究発表
特になし

H．知的財産権の出願・登録状況
特になし